

<読者投稿>

川合善明市長、晩節を汚さぬうちに、潔く退陣せよ

(2015年12月8日)

行政の首長たるものは威厳と風格があつてこそ、その存在に輝きがあるものだ。
筆者はこれまでに、仕事柄数々の行政の首長に接する機会を持ち、その言動に直に触れてきた。

ところが、脈々と続く長い歴史と伝統のある川越市にあつて、その首長たる川合善明市長をここ数年注目してみると、首長として似つかわしくない言動が余りにも目立つこと甚だしいのだ。

川合市長はこれまでに、幾つもの物議を醸してきたが、悲しいかな最近の事例を挙げてみたい。川合よしあき後援会ニュースVOL. 8の中の内容だ。

川越市では、現在12月定例会が開会中であるが、その定例会に「仮称川越市新学校給食センター整備運営事業契約について」の議案が上程されている。議案としてこれから審議されようとしている正にその最中、そのニュースが既に配信され、その中身は、「工事として進行している。」という内容を公に晒してしまったのだ。

議会軽視も甚だしい。そのニュースの内容について、誰が作ろうが彼が作ろうがその最もたる責任者は、川合市長自身だ。今議会中、その件で言い訳みだ説明をされたということだが、その言い訳が余りにも行政の首長として醜い。

亡き父上が恐らく天上で泣いていることだろう。

私が敢えて比較せざるを得ないのが、川越市長を4期16年務めた故舟橋功一氏だ。

今は亡き氏の功績を今更言うまでもないが、氏には、政治家としての懐の深さがあり、弱者への心温かい眼差しがあつた。そして、亡き氏を陰となり日向となり、懐刀として気骨のある人物が背後で大きく支えていたことも看過してはならない。亡き氏の功績を生み出した要因のひとつに、支えてくれた人物に恵まれていたことだ。更には、野党系の議員等にも大きな信頼が寄せられていたことも事実だ。

一方、川合市長の周囲の人物を見てみると、余りにも悲しい。これがそもそも悲運である。副市長にあつては、任期中既に4人もが辞職しているのだ。議会に至っては言うに及ばずだ。

川合市長は、聴くところによると数々の輝かしい経歴の持ち主ということだ。然しながら行政の経験は皆無なのだ。唯一、選挙管理委員会の委員長を務めた程度である。

これ以上、失態を繰り返さないためにも、ここで、私が氏の後援会長であるならば、敢えて川合市長に忠告したい。

35万川越市民のためにも、そして自身の晩節を汚さぬうちに、川越市長を2期全うして、そこで潔く退陣したほうが良い、と。

行政調査新聞読者より